

親も子どもも救える社会に

特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネット・にいがた



子どもへの虐待を防止する親支援の講座や親と子どもの関係を育むペアレンティングプログラムを提供しています。子どもへの具体的な声かけの仕方を学び、対応の仕方を変えていくことで、子どもを守り、親としての自己肯定感を育みます。虐待されている子どもはもちろん、虐待している親も救えるような社会になってほしい。そのために、今後も講座やプログラムを多くの人に提供することで、地域に笑顔を増やしていきたいです。

8 働きがいも経済成長も

担い手づくりのファーストステップ

大口れんこん生産組合



1968年に大口れんこん生産組合がスタートし、地域の産業となりました。2012年より実施している「はなはす・れんこん・上通プロジェクト」は、収穫、はなはすの設置、販売など座学ではできない職業体験で働きがいを感じてもらっています。今いる子どもたちが大人になっても、れんこんを誇りに思い、れんこん栽培を持続可能な産業にする。そのために担い手を育てるファーストステップの活動を、今後も続けていきたいです。

詳しくはこちら



知る、つながる、好きになる ながおか市民活動情報誌

2021

5

Vol.101

TAKE FREE



「遊び」は「学び」



雨の日ひょっこり顔を出すカタツムリ
ふりつと飛ばしたタンポポの綿毛
「遊び」の中にはいつも「学び」がある
そんな子どもたちの遊び体験を守る活動をご紹介します

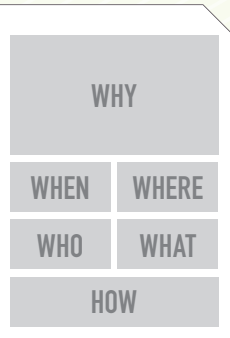
市民活動・虎の巻

/// 研究テーマ /// 「伝わる」広報物を作ろう! -「準備」編-

自分たちの想いを伝える広報物。今までのものを何となしに使い続けている方も多いのでは？
広報物を作る時のポイントを2回に渡ってお伝えします。

“5W1H”で内容をしっかり決めよう!

読み手に伝わりやすい広報物とはどんなものでしょうか。実際にあなたが広報物を見て参加したイベントや購入した商品は、他とどう違っていたのかを考えてみてください。人はチラシを見て、そこに記載されている内容を頭の中で一度再現すると言われています。そのイメージが良ければ実際にその行動をしてくれるというわけです。あなたが広報物を作る側に立った場合もこのような視点を持って取り組めると良いですね。情報の整理として「5W1H」を基に考えてみましょう。



WHY

なぜ

目的。その情報はなぜ必要なのか。宣伝文句やイメージ写真で関心を引きます。

WHEN

いつ

日時。開始時間のほか、荒天時の時間、申込み期間なども忘れずに。

WHERE

どこで

場所。地図や駐車場の有無などが記載されていると親切です。

WHO

だれに

対象。ターゲット（性別、年齢層、新規客、既存客など）が細かいほど届きやすくなります。

WHAT

なにを

内容。スケジュール、仕様、条件、価格など、相手が得られるメリットを中心に載せましょう。

HOW

どうやって

方法。電話なのか直接来てほしいのかなどを明記しましょう。次の行動までの障壁が低いほど〇。

MEMO

読み手にとって、不明確な点が不安要素にならないように、できるだけ詳しく掲載しましょう。これまでの実績や利用者の声なども安心感や信頼感につながります。

センターからのお知らせ

ながおか市民活動フェスタ2021
参加団体募集!

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で会場での開催を中止した、市民活動の文化祭「市民活動フェスタ」。今年度は感染症対策を行った上で開催します!日頃の活動をPRしたい活動団体のみなさん、ぜひご参加ください。初参加大歓迎!

申込期間

5月10日(月)~6月10日(木)

【開催日時】9月11日(土) 10:00~15:00

【会場】アオーレ長岡

【参加料】無料

※応募多数の際は調整させていただきます。
※申込期日を過ぎてからの申込みはお受けできませんのでご注意ください。

詳しくはこちら

2021.5.1
vol.101

TAKE FREE

発行/
ながおか市民協働センター〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail.kyodo-c@ao-re.jp URL.https://nkyod.orgつながる
ラジオFMながおか80.7MHz
毎週月曜17時頃~

「NAGAOKA PLAYERS」と「長岡みんなのSDGs」を放送中!

市民活動の
ポータルサイト
コライト

要チェック! タイムリーな情報と協働センターの日常



@NkyodoCenter



@nagaoka_kyodo



@mytown0258



ながおか市民協働センター

特集

森のようちえん「ふたばっこ」
一般社団法人 森の演出家協会 長岡支部

NAGAOKA PLAYERS

こんどうよういちろうさん

長岡みんなのSDGs

特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネット・にいがた
大口れんこん生産組合

市民活動・虎の巻

「伝わる」広報物を作ろう! 「準備」編

「遊び」は「学び」 子どもたちの遊び体験を守る活動

今、私たちのまちが抱えている様々な課題に、それぞれの特性を活かして向き合い続けている市民活動団体をご紹介します。今月号のテーマは、「『遊び』は『学び』」。子どもたちが自由に遊ぶことのできる場所の減少や、人とのつながりの変化により減り続けている外遊びの時間を、活動団体はどのように守っているのでしょうか？

みなさんは、子どもの頃何をして遊んでいましたか？外でたくさん遊んでいたという方もいらっしゃるのではないのでしょうか？しかし、空き地が減ったり、公園の利用ルールが厳しくなったりしたことで、子どもたちが自由に遊べる場所は少なくなってきました。また、遊べる場所があったとしても、年上の子どもたちと一緒に遊ばなくなったことで、遊び方をまねする機会が減り、外での遊び方がわからない子どもが増えているという問題も。このような状況の中、子ども

たちに外遊び体験を提供している団体をご紹介します。
長岡市栖吉町にある緑豊かな「赤城コマランド」で、野外保育をしている「森のようちえん『ふたばっこ』」。晴れの日には晴れの日の、雨の日には雨の日の楽しみを見つけながら、一日の大半を外で過ごしています。ふたばっこの大きな特徴の一つは、スタッフが子どもたちの興味や自主性を大切にしているところ。自由時には、積もっている雪と枝でケーキを作っている子がいれば、おにごっこをしている子、何

かをじっと眺めている子も。また、お散歩の間には、スタッフと子どもたちが相談して決めたコースを歩き、木登りやふきのとう採りなど、子どもたちがその時にしたいと思ったことをスタッフも一緒に楽しんでいます。危ないことは「危ない」としっかり伝えますが、必要以上に手を貸さず、子どもたちがのびのびと遊べる場所をつくっているのです。

国営越後丘陵公園で活動している「一般社団法人 森の演出家協会 長岡支部」は、子どもたちに外での遊び方や楽しさを教えるプロ集団。気軽に自然に触れることのできるイベントやワークショップを開催しており、それぞれの専門的なスキルをもったスタッフが講師を務めます。そのイベントの一つが、家族を対象にキャンプの技や楽しさを伝える「キャンプの楽校」。春から冬のそれぞれの季節に開催されており、その季節に合ったキャンプの技を体験することができます。1月には雪上キャンプの体験会も！冬でも半袖でキャンプを楽しむ小林隊長が、雪上にテントを立てる方法や、寒さをしのぐ方法、寒さの中で眠りにつくコツを伝授したそう。外での遊び方がわからない子どもが多い中、遊び方の一例を見せることで、子どもたちが自然に触れるきっかけをつくっています。

自由にのびのびと遊ぶことは、子どもたちの創造性を育み、その創造性はいつかの社会をつくります。子どもたちが外で遊ぶ時間と場所を、守っていききたいですね。



1月に開催された「キャンプの楽校」での様子。参加者は、雪が積もった地面に刺しても抜けないベグの使い方を学びました。

【参考文献】

- 北村安樹子, 2010,
「子どもの遊び空間と地域の住空間」『Life Design Report (Winter 2010.1)』:17.
- 小川博久, 2007,
「子どもの遊び場における『プレイヤー』の役割についての理論形成の必要性」: 85.



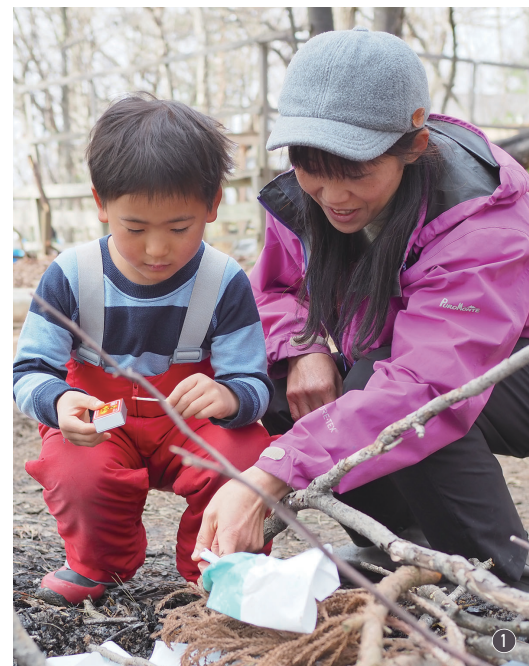
森のようちえん 「ふたばっこ」

2008年設立。子どもの豊かな感性やしなやかで強い心を育てるため、栖吉町にある赤城コマランドで野外保育を行っている。



一般社団法人 森の演出家協会 長岡支部

2019年設立。現代人が失いつつある心の豊かさや生きる力を取り戻すため、国営越後丘陵公園でキャンプ体験会などを開催している。



①②ふたばっこの一日は、お昼に食べる味噌汁作りからスタート。野菜を切ったり、焚火に火をつけたり、一人ひとりが自分にできることをします。
③赤城コマランド内にあるツリーハウスで遊ぶ子どもたち。敷地内には、木のブランコもあります。



メンバー & 参加者の声



「ふたばっこ」
スタッフの石田さん

息子が通っていたご縁で働き始めました。子どもたちが、感性を磨き、生きていくための力や知識を身につけられるところが魅力です。



「ふたばっこ」園児
まれいちゃんのお父さん

1年中、外で遊んで四季を感じ、自分で考えて遊びを見つけた、とてもいい環境だと思い入園しました。



「キャンプの楽校」
参加者のまことさん

テントに泊まったり火をおこしたりして楽しかったです。大人の友達ができたので、また一緒にキャンプしたいです。

誌面で紹介しきれなかった、
子どもたちに遊び体験を
提供している団体や、
場所を掲載中!



コライト
特集ページは
こちら

ウワサのあの人にインタビュー！

NAGAOKA PLAYERS

ロックバンドのボーカルが
長岡で“歌のおにいさん”になったワケ



こんどうよういちろうさん
44歳／社会福祉士

1976年長岡生まれ。妻と子ども2人の4人家族。ステージ演奏のほか、摂田屋6番街発酵ミュージアム米蔵のテーマソングなど地元企業店舗のCM曲も手掛ける。

こんどうよういちろうさんは長岡音むすびフェスや雪しかり、子育て施設や保育園、赤城コマランドなどのステージでギターの弾き語り演奏を披露し、子どもたちの心を瞬時にキャッチする“歌のおにいさん”です。

長岡出身のこんどうさんは東京で暮らしていた頃、3人編成のロックバンドを結成し、ギター兼ボーカルとして東京と長岡を拠点に精力的に活動していました。バンドとして4枚のCDを発売し、32歳になった時、こんどうさんは長岡に戻ることを決めました。帰郷後は、高齢者福祉施設に就職。「シンガーも社会福祉士も、人に対して優しい気持ちを届けるという意味では共通していますね」。

地元でも歌を続けたいと思っていましたが、結婚し子どもに恵まれると、作曲当時の気持ちと親になった自分の気持ちにギャップを感じ、過去の楽曲を歌うことに違和感を覚えるように。その頃、両親が運営していた絵本カフェ「絵本の森グランチャ」で、絵本作家や子どもの歌の作曲家として知られる中川ひろたかさんとの対面が叶い、中川さんの代表曲「にじ」のカバー演奏を快諾頂きました。こんどうさんは、子ども向けの歌に込められたメッセージが大人である自分にも響くことに気づき、そんな体験をより多くの人と共有したいと願うようになったそう。そして改めて「自身の歌を人々に届けたい。あと10年は歌い続けられるかも」と思えるようになりました。

それ以来、こんどうさんは自身の音楽が、他者とのつながり、楽しい気持ちの共有、自己肯定感の高まりが少しでも広がればとの想いから、小さな集まりの場などでボランティアで歌う活動もしています。

ステージでは、子どもの反応を見ながら選曲、会場を巻き込みながら進行していきます。「子も親も、歌やリズムを遊びながら体感して、それぞれに音楽の楽しみ方を発見していただけたら、うれしいです」と語ってくれました。

